

[05] エネルギー史研究ノート表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13833>

出版情報：エネルギー史研究ノート．5，1975-06-25．エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：



明治十七

二・三〇

三

下の氷人にあらず■年もしなしな■趣意が知れぬ■しばい○正誤
■通したるは口惜（※二三日付）警察より訂正要求○社説（佐賀
士族就産論）○雑録■驟雨ニ逢テ傘ナキヲ嘆ス（無腸醉史）

■三池集治監の囚徒八十余名破獄逃走

編集後記

○第五号を編集することができました。お寄せいただいた原稿が多く、分載するよりほかないものが何篇もあって、申し訳なく思っています。これも伸びる生命力のあらわれでしょう。研究の広場作りは順調に進んでいます。今後はこの広場を踏まえ、お互いの交わりを密にして、さらに内容を高めるよう努力したいものです。

○以前から水力——水車に関する研究を要望していましたが、今回は今津健治氏の論文をいただきました。水力電気や水資源などにも広がる問題です。今後とも水力は課題にしてほしいと思います。○三井田川について原稿を寄せられた金子雨石翁は田川郷土研究会の主力メンバーの一人。昨年十二月『筑豊炭坑のことば』という本を出されています。死語となりつつある炭坑語彙一、三〇〇語を収録し、石炭産業史研究に必携の本です（名著出版刊、定価二、八〇〇円）。

○坪内安衛さん、細川章さんはいづれも佐賀県の御自分の郷里に石炭資料室を開設されています。国も地方自治体も、誰もしてくれない以上、ささやかでも自らの手で創るよりほかありません。それぞれの場合で小さなものを積みあげてゆきましょう。細川さんの石炭用具蒐集には我々も共同作業して九州大学にも用具を収納させてもらい、また筑豊でも多少蒐めました。九大の分もいくつか報告させてもらうつもりです。近く九州芸術工大の由良教授に多

久の分と九大の分を作図、写真撮影などしていただき、三者共同してある程度まとめるよう計画もしています。

○今回、『九州石炭産業史資料目録』第一集を刊行しました（西日本文化協会刊、六、五〇〇円）。引き続き第二集刊行の予定で準備中です。第二集は戦後の論文目録、麻生家文書、外交資料館、佐賀大学、宮崎文庫等の諸資料……等々。麻生家文書の調査、目録作成には、院生、学生達も大いに力になっています。

○今回も予告しましたエネルギー史の論文集は、力作の論文が集まってきて大変な頁数になりそう……嬉しい悲鳴ですが、刊行は来年度になりましょう。

○若い世代が少しづつ育ってきているのも嬉しいことです。大きなもの、良いものは一世代では決して出来ません。それぞれの場に良い後継者をつくることを——その条件がむづかしいことは重々承知の上で、なお貞剣に考えましょう。この雑誌が若い諸君の発表の場となることを心から望んでいます。

○今回も民間で研究されている方々の労作を何篇もいただき喜んでいきます。既成の研究を模倣したり、孫引によって大言壮語するのではなく、地元のオリジナルなものを黙々として積み上げたものは、実に根強いものです。しかし学問の道はさらにはるかです。「ローマは一日にして成らず」と申します。我々は——学界、民間を問わず——常に思い上ることなく、卑下することなく、たゆみなく勉強に努めましょう。

（S・H・）